

開講年度 2017 年

科目名	臨床臓器別講義 総論	単位数	授業形態	講義	科目ナンバリング	MACLI3401
英語表記	Lectures On Each Organ					

● 担当教員

コース主任 教務委員長

各コースの担当教員参照

● 科目の主題

臨床臓器別講義では、内科、外科等の講座毎ではなく消化器、循環器、内分泌・代謝等の臓器別のコースを複数の講座で横断的に統合して講義を行っている。医療系大学間共用試験実施機構が行う共用試験（CBT、OSCE）に向けて、必要な各臓器の正常機能と検査法、さまざまな疾患の病態生理から病因、診断そして治療までを系統的に学習することを目的としている。

● 授業の到達目標

《一般目標》

本学コンピテンスである「医学および関連領域の知識」として臓器別で正常から疾患に至るまでの知識を学び、参加型臨床実習に向けて必要な基礎知識を習得すること。

《到達目標》

- ・各臓器の正常機能を理解し、その検査法と検査の概略を理解する。
- ・基礎医学の知識を応用して、各疾患の病態生理と症候を理解する。
- ・各疾患の病因、診断そして治療を理解する。
- ・臨床現場での諸問題について基本的事項と概略を理解する。

● 授業内容・授業計画

各コースの日程表参照

● 事前・事後学習の内容

各コースの事前・事後学習や参考資料を参照

● 評価方法

筆記試験を各コース毎に行います。

総合結果 60%未満の点数もしくは各コース 60%未満の点数のとき再試験を行うが、不合格コース(欠席コース含む)が 10 コース以上あった場合、コース再試験をうけることができません。体調不良による試験欠席は、診断書を添え、「欠席届」・「追試験願」を試験日より 1 週間以内に学務課へ提出してください。

● 受講生へのコメント

医療系大学間共用試験実施機構が行う共用試験（GBT、OSCE）で問われる範囲にこだわらず、間もなく始まる参加型臨床実習に必要な基礎知識となります。今後、国家試験、研修医そして医師になっても必要な知識の習得をする大切な講義です。また、一部では各コースでの最先端の話題に触れることになり、「科学的探究心」を培うことにもつながります。

● 教材

各講座の教材を参照

● 対象学年

4年生

● コアカリキュラムへの対応

D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療

E 全身におよぶ生理的変化、病態、診断、治療

F 診療の基本

● その他

開講年度 2017 年

科目名	臨床スターター実習 (共用試験 OSCE)	単位数	授業 形態	実習	科目 ナン バリ ング	MACLI3402
英語表記	Introduction to Clinical Clerkships (OSCE)					

● 担当教員

臨床スターター実習：各臨床診療科教員および医師

● 科目の主題

臨床スターター実習では、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships：CC）開始前までに修得しておくべき医学的知識をより実践的に活用できるよう講義、シミュレーター実習など活用し、小人数で知識を実際に応用して学習する機会を盛り込むようにプログラムされている。

● 授業の到達目標

《一般目標》

診療参加型臨床実習に必要な態度・技能・知識を習得する。

《到達目標》

(1) 診察技法

以下の項目の要点を説明して模擬患者もしくはシミュレーターで実施できる。

- 1) 医療面接
- 2) 全身状態の把握
- 3) バイタルサインの測定
- 4) 頭頸部診察
- 5) 胸部診察
- 6) 腹部診察
- 7) 神経診察
- 8) 四肢と脊柱
- 9) 救急

(2) 治療手技

以下の手技の要点を説明して実施できる（一部はシミュレーター）。

- 1) 簡単な診察器具の使用（聴診器，打腱器，血圧計，舌圧子，眼底鏡，耳鏡，心電図、エコー）
- 2) 採血，注射，点滴
- 3) 縫合結紮
- 4) 手洗い，ガウンテクニック
- 5) 救急蘇生，BLS，気道確保，人工呼吸法，体外心臓マッサージ法

(3) 態度

臨床実習で必要な態度・マナーについて説明し実施できる。

● 授業内容・授業計画

診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度の習得を目的とする。具体的には、共用試験(Objective Structured Clinical Examination :OSCE)に準じ、医療面接、全身状態とバイタルサイン、頭頸部、胸部、腹部、神経、(四肢と脊柱)、基本的臨床手技、救急の各分野を専門医師の指導のもとに学習する。また、医療面接実習においては、学習者同士に留まらず、“患者”を役割演技する模擬患者にも参加していただき、実践的な学習、患者目線からのフィードバックが受けられるようになっている。その他、採血実習や超音波実習では、シミュレーター実習の後、医師の指導のもと学習者同士での実習へと段階的に進めていく。

※臨床スターター実習時間割の詳細については別紙を参照

● 事前・事後学習の内容

臨床スターター実習では、実習での学習成果向上のために e-learning システム(Moodle)を用いた事前学習システムを導入している。具体的には、学習者は実習前に共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD を視聴し、内容の理解度を e-learning システム(Moodle)を用いた小テストを用いて確認する事ができるようになっている。また、事後学習として修了テストが用意され、Moodle を用いて試験を受けることができる。

● 評価方法

OSCE・CBT に合格していることが進級の条件である。

● 受講生へのコメント

医師に求められる資質として、知識、技能、態度の3つがよく挙げられます。本コースでは、これまでの知識重視、講義中心の学習形態から、技能や態度重視な学習形態に変わっていきます。医師としての基盤が萌芽される重要な実習期間ですので、来るべき共用試験 CBT、OSCE に合格する事に留まらず、医師として働く自分をしっかりと意識して参加してもらいたいと思います。

● 教材

OSCE 学習者用資料

共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD

人体部分模型、シミュレーター、診察器具、医療機器

学生同士のロールプレイ、模擬患者を交えたロールプレイ

● 対象学年

4年生

● コアカリキュラムへの対応

A 基本事項 (医の原則、医療における安全性の確保、コミュニケーションとチーム医療、課題探求・解決と学習の在り方)

B 医学・医療と社会 (地域医療)

F 診療の基本 (症候・病態からのアプローチ、基本的診療技能)

G 臨床実習（診察法、基本的臨床手技）

●その他

開講年度 2017 年

科目名	プライマリケア医学コース	単位数	授業 形態	実習 講義	科目 ナン バ リ ン グ	
英語表記	Primary Care Training course					

● 担当教員

- ・ 外来診療学/家庭医療学：医学部同窓会依頼医師（非常勤講師）
- ・ Problem Based Learning (PBL) チュートリアル：基礎系講座教員および職員

● 科目の主題

プライマリケアとは、家族及び地域という枠組みの中で、緊急の場合の対応から健康診断の結果についての相談までを幅広く行う医療のことである。本コースでは、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships：CC）開始前までに修得しておくべきプライマリケアに必要な知識を包括的かつ実践的に活用できるよう、プライマリケアの最前線を担う医師が中心になり行われる。具体的には、全体講義ならびに小グループによる問題基盤型学習（Problem Based Learning：PBL）、症例基盤型学習を実施し課題探求・解決能力の身につける。

● 授業の到達目標

《一般目標》

プライマリケアに必要な態度・知識、問題解決能力を習得する。

自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける

《到達目標》

(1) 態 度

- 1) プライマリケアに必要な態度・マナーについて説明し実施できる。
- 2) プライマリケアの必要性を理解し、説明できる。
- 3) 地域医療連携、機能分担について説明できる。

(2) 知 識

- 1) 経験すべき主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概略を発達、成長、加齢ならびに性別と関連付けて述べる事が出来る。

ショック、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、痰・咳、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食思不振、便秘・下痢、吐血・下血、腹部膨満・腫瘤、蛋白尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛

- 2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる
- 3) 医療安全管理について説明できる。
- 4) 代替医療（東洋医学を含む）について説明できる。
- 5) Evidenced Based Medicine (EBM) について説明できる。
- 6) 医学文献を検索することができる。

(3) 問題解決能力

- 1) 自学自習により情報を収集することができる。
- 2) 科学的根拠に基づいた論理的思考を身につける。
- 3) プレゼンテーション技能およびコミュニケーション技能を身に付ける
- 4) 問題点を説明できる
- 5) 問題解決のための方策を説明できる

● 授業内容・授業計画

大学病院や大規模総合病院では経験することが少ない common disease に対するプライマリケアについて症候学の観点から学習する。つまり、“病院医療”とは異なった“地域医療”の目線から、疾患の病態生、診断そして治療までを系統的に学習することを目的としている。また、医療安全、医学文献検索、代替医療（東洋医学を含む）についても実践的に学習できる内容を盛り込んでいる。

PBL チュートリアルでは、症例シナリオをもとに、チューター（個別指導教員）のファシリテートにより、“事実の把握”、“問題点の抽出”、“仮説の立案”、“診断、治療計画の立案”を行う。自ら問題点を発見し、臨床推論を含めた問題解決能力を学習することを目的とする。また、グループ学習で行うため、将来のチーム医療に欠かすことのできないコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上の習得も目指す。

● 事前・事後学習の内容

臓器別講義で修得した内容について復習しておく。PBL チュートリアルには積極的に参加・発言を行い、担当した症例に関する臨床推論や鑑別診断、治療方針について復習を行う。

● 評価方法

すべての講義、実習への出席を必須とし、PBL チュートリアルでは、担当者およびチューターの評価（実習や討論への参加状況など）をもとに進級判定する。

● 受講生へのコメント

本コースでは、これまで臓器別に学習してきた疾患概念を症候学別に捉えなおし、より実践的な力を身につけることを目標とします。

● 教材

講義、スライド、症例提示

● 対象学年

4年生

●コアカリキュラムへの対応

A 基本事項（医の原則、医療における安全性の確保、コミュニケーションとチーム医療、課題探求・解決と学習の在り方）

B 医学・医療と社会（地域医療）

F 診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療技能）

●その他

開講年度 2017 年

科目名	外来型 CC (外来型クリニカルクラーク シップ)	単位数		授業 形態	実習	科目 ナン バ リ ン グ	
英語表記	CC in the outpatient clinics						

● 担当教員

各臨床診療科教員および医師

● 科目の主題

診療参加型臨床実習 (Clinical Clerkships : CC) の導入として、外来診療を行っている現場において実習を行う。実際の患者さんを相手にした診療業務を通じて、どの診療科の医師になるとしても必要な医療面接、診療記録とプレゼンテーションを実践的に身につけることを目標とする。

● 授業の到達目標

到達目標の詳細は別紙、診療参加型臨床実習のための学習ガイドに記載している。重要な項目を以下に記載する。

I. プロフェッショナリズム

- 患者のニーズを認識し、そのニーズに合わせることができる
- 患者情報の守秘義務と情報提供の重要性を理解し、患者のプライバシーに配慮できる
- 上級医に対して適切な報告、連絡、相談ができる
- 利他的な行動をとることができる

II. コミュニケーション力

- 患者の人格を尊重し、訴えを真摯に傾聴することができる
- 現病歴、既往歴、家族歴、生活歴などの病歴を適切に聴取することができる
- 他職種医療職者、他医師と適切なコミュニケーションをとることができる
- 受け持ち症例に関して定型的なプレゼンテーションができる
- 適切に患者の情報を収集し、問題志向型診療記録を作成できる
- 基本的検査の所見を解釈できる

● 授業内容・授業計画

事前に教務課より配属された外来部署にて 2 週間の外来実習を行う。今年度は 2 部署に配属される。本実習では、割り当てられた患者に付き添い予診(問診)を行う。その後、初診担当医師に情報収集した内容を簡潔にプレゼンテーションし担当医師の診療に参加し、診療内容をカルテに記載する。その他の時間帯は、外来部署の一員として、医療職の監督のもと外来業務の補助につく。担当した患者については、原則、午後から行われる症例検討会でプレゼンテーションを行う。

● 事前・事後学習の内容

症例検討会に向けて、担当患者の病歴、身体所見、各種検査結果、鑑別診断、治療方針等の知識整理を行うこと。事前準備にあたってはグループ全体で行うことを推奨する。チーム基盤型学習（Team-Based Learning）を行うことで、多くの症例を間接的にも経験できること、多くの気づきが得られること、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上につながる。

● 評価方法

別紙、診療参加型臨床実習のための学習ガイドに①自己評価表、②外来診療症例リスト・指導に関わる医師評価表、③患者アンケート、④メディカルスタッフアンケート、⑤指導体制評価表を添付している。①②⑤は学習者が記載し、②作成においては必ず担当医師からの評価を受けること。進級判定の材料となる。

● 受講生へのコメント

CCとは、病院という医療の現場で、学生が主体となり、患者様との関わりの中から臨床を学ぶ臨床参加型の実習方式です。「患者さんに敬意をもって接する」、「積極的な姿勢で、医療知識技術を身につける」ことを忘れず、Student Doctorとしての自覚をもって臨んでほしいと思います。

● 教材

各診療科・外来部門

● 対象学年

4年生

● コアカリキュラムへの対応

A 基本事項（医の原則、医療における安全性確保、コミュニケーションとチーム医療、課題探求・解決と学習の在り方）

B 医学・医療と社会

F 診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識、基本的診療技能）

G 臨床実習（診察の基本、診察法、基本的臨床手技、診療科臨床実習）

● その他